

平成27年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT27186 どうしたらケンカしている人ともっと良い関係が作れるの？



開催日：平成27年12月13日(日)

実施機関：清泉女学院大学

(実施場所) フランシスコ館 F301

実施代表者：室井 美稚子

(所属・職名) 人間学部 教授

受講生：高校生 31名

関連URL:

【実施内容】

ほぼ当初の予定通り31名の高校生に参加していただきました。ひらめき☆ときめきサイエンスへの参加が初めての高校生ばかりであったため、グループワークを通して平和学について理解しやすい方法を事前に実施者全員で検討を重ね、準備を行いました。

■当日のスケジュール

10:30-10:50

開講式(開会の挨拶、オリエンテーション、科研費の説明)

科研費と「ひらめき☆ときめきサイエンス」に関する説明を行い、実施者の紹介も行いました。

10:50-11:15

ワーク①アニメ「鬼退治したくない桃太郎」をみてグループディスカッション

お互いに面識のない参加者を4人一組のグループとしました。一日のワークなので、気さくに話せるように、まずはお互いを知るために好きなアーティストや食べ物などを含めた自己紹介を行いました。

その後、平和学を身近に捉えてもらうことを目的に、アニメを鑑賞してもらい、参加者自身の感想や他の参加者の感想をもとに、意見交換を行いました。

このアニメは「異質と感じた相手に攻撃する以外の発想を持つ」ということを提示しており、参加者から「聞く姿勢を持つことは大事」「言いたいことはしっかり言葉にして言わないとやはりわからない」などの発言がありました。

11:25-12:00

ワーク② アニメの内容のリフレクション

ワーク①で鑑賞したアニメで提示された内容を基に、それぞれのグループでテーマ(もめていること)を設定し、4つのイメージ(明るい「未来」と「過去」、暗い「未来」と「過去」)を描いてもらいました。他のグループのイメージも見てまわって、そのイメージについて質疑応答を行いました。その後、ケンカをしているときにどのイメージから話したら相手が聞いてくれるかについて、意見を出し合ってもらいました。



12 : 00-13 : 00

昼食・休憩

参加者と実施協力者の学生がグループ毎におしゃべりをしながら、午前の体験を振り返り、昼食を楽しくいただきました。

13 : 00-13 : 45

ワーク③SABONAのツール3とツール4の講義とグループ練習

SABONA平和学習の概要について、パワーポイントをつかって詳しい説明を行いました。図や写真を使った解説を行い、平和についての考え方を広げることを目的としています。理論を受けて、身近に起こりそうな例を取り上げて、実施協力者の学生が準備した布製のSABONA マットの上を移動してもらい体感できるようなワークを行いました。



13 : 55-14 : 40

ワーク④SABONAのツール5の講義とグループ練習

「話す順番」に続き、具体的に解決方法についての5つの発想を学んでもらうため、「オレンジが一つしかなくて2人で分けるときどうすれば良いか」というテーマでグループごとに意見を出し合ってもらいました。

最初はあまり発想が広がりませんでしたがお互いの意見から刺激を受けて最終的には全体で40もの解決策が出てきました！

それぞれのグループからの意見を聞いて、同意したり感心したりと、場がもりあがりました。

14 : 40-15 : 30

クッキータイム・ディスカッション

アニメの「みんながハッピーになる5つの方法」を鑑賞し、おとぎ話をハッピーな物語にどのように変えれば良いかを考えてもらうため、お菓子やお茶を楽しみながら、グループ毎に相談してもらいました。

15 : 30-16 : 30

ワーク⑤アニメ「みんながハッピーになる5つの方法」を見て

最初に見た「桃太郎」の話のように、みんながハッピーになるバージョンを、グループ毎に違うおとぎ話（『シンデレラ』『白雪姫』『マッチ売りの少女』など）を元に考え、それぞれの物語を他のグループに対して発表してもらいました。

16 : 30-17 : 00

修了式（アンケート記入、未来博士号授与）

参加者一人ひとりが壇上に上がって、拍手の中で修了証書を受け取りました。

■事務局との協力体制

教育文化研究所をはじめとした関係事務部署と連携を密に行い、事前準備・当日のサポート・経理処理など、問題なく実施することができた。

■広報活動

広報用のポスターを作成し、ホームページに掲載した他、高校への送付、教員による直接配付などを行い、当初予定していた通りの参加者数で実施することができた。

■安全配慮

- ・参加者及び実施協力者全員を対象に傷害保険に加入した。
- ・参加者を少人数のグループに分け、全てのグループに担当の実施協力者を配置した。

■今後の発展性、課題

スムーズに進行することができたが、それぞれのワークに必要な時間に差が出たため、時間配分について再構築する必要がある。また、開催日時についても対象となる高校生の参加しやすさを考えて、調整を行う必要があると思われる。

平和学について、本事業を通じて参加者により深く理解してもらえる実施内容・方法を考察し、今後も継続していくことを検討する。

【実施分担者】

寺門 正顕 (清泉女学院大学 人間学部 教授)

川北 泰伸 (清泉女学院大学 人間学部 助教)

【実施協力者】 10名

【事務担当者】

清泉女学院大学 教育文化研究所 課員・松田 純